

松山赤十字病院

大正 2(1913)年



大正 8(1919)年



昭和 17(1942)年



昭和 26(1951)年



昭和 56(1981)年



平成 30(2018)年



※所在地：愛媛県松山市文京町1番地（〒790-8524）

当院は大正2（1913）年4月に全国で10番目の日赤支部病院として開院され、今年で105年目を迎えています。

現在は新病院建設の真っただ中、平成33（2021）年グランドオープン予定です。

【沿革】

大正 2(1913)年4月1日

※日本赤十字社愛媛支部病院として開院

昭和 12(1937)年 12月 20日

※松山陸軍病院赤十字病院（支那事変戦傷病者の受け入れ先として陸軍病院に指定される）

昭和 17(1942)年 12 月 18 日

※呉海軍病院愛媛赤十字病院（海軍の戦時衛生勤務の幫助を下命）

昭和 18(1943)年 1 月 1 日

※松山赤十字病院・呉海軍病院松山赤十字病院（本社病院規則の改定）

昭和 20(1945)年 7 月 26 日

※松山大空襲（病院建物焼失、国民学校を仮病院として診療を続ける）

昭和 22(1947)年

※復興

病院概要

病床数：632 床

診療科目：31 科

脳神経外科・循環器科・整形外科・内科・肝臓、胆のう、膵臓内科・腎臓内科・神経内科・呼吸器内科・呼吸器外科・消化器内科・リウマチ科・小児科・外科・形成外科・心臓血管外科・小児外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線診断科・放射線治療科・麻酔科・血管外科・乳腺外科・心療内科・精神科・歯科口腔外科・病理診断科

職員数：1,473 名

医師数：196 名

看護師数：753 名

診療放射線技師数：33 名（内 男性 25 名・女性 8 名）

認定技師取得者数：

認定内容：

- ・第 1 種放射線取扱主任者 14 名（免状取得者 4 名）
- ・第 2 種放射線取扱主任者 3 名
- ・放射線治療専門技師 3 名
- ・放射線治療品質管理士 1 名
- ・医学物理士 1 名
- ・検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師 6 名
- ・血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師 1 名
- ・X 線 CT 認定技師 1 名
- ・超音波検査士 2 名
- ・医療情報技師 1 名

当直・夜勤体制について

宿直 1 名（特殊検査は呼出しによる対応）

日直 1～1.5 名（土日祝）

【救急当番日】 1 回/8 日（松山市指定）

宿直 3 名

日直 4 名（土日祝）

導入機器

一般撮影

担当技師：6 人 機器台数：5 台

導入メーカー・機器名 島津メディカル社製（RAD speed Pro、RAD speed、RADIOTEX）

1 日平均撮影件数 228 件

マンモグラフィ

担当技師：0.5 人 機器台数：1 台

導入メーカー・機器名 富士フィルム株式会社（AMULET DR-2000）

1 日平均撮影件数 13 件

ポータブル

担当技師：2 人 機器台数：3 台

導入メーカー・機器名 島津メディカル社製（MUX-100 / MobileArtEvolution / MobileDaRtEvolution）

1 日平均撮影件数 23 件

CT

担当技師：4 人 機器台数：4 台（内 80 列：2 台 64 列：2 台）

導入メーカー・機器名 Canon メディカル社製（AQUILION / CX・CXL・PRIME・PRIME SP）

1 日平均撮影件数 133 件

ワークステーション ZIO Station2、VINCENT

MRI

担当技師：4 人 機器台数：3 台（3.0T：3 台）

導入メーカー・機器名 PHILIPS 社製（Ingenia 3.0T CX 2 台 / Ingenia 3.0T 1 台）

1 日平均撮影件数 47 件

SPECT-CT/SPECT

担当技師：2人 機器台数：2台

導入メーカー・機器名 SIEMENS 社製 (Symbia Intevo 2) Canon メディカル社製 (GCA-9300R)

1 日平均撮影件数 8 件

PET-CT

担当技師：1人 機器台数：1台

導入メーカー・機器名 SIEMENS 社製 (Biograph Horizon)

1 日平均撮影件数 3 件

血管撮影 (心カテ、頭部血管、腹部血管、HybridOR などすべて含む)

担当技師：3人 機器台数：3台

導入メーカー・機器名 PHILIPS 社製 (Alura Clarity FD 20/15/FD 20/FD 10/10/FD20HBOR)

1 日平均撮影件数 9 件

透視装置

担当技師：3人 機器台数：5台

導入メーカー・機器名 島津メディカル社製 (S/V mxi II/ZS-100I SONIALVISION/ZS-5D FLXAVISION F3
ZS-5D FLXAVISION F3、ZS-200 SONIALVISION)

1 日平均撮影件数 13 件

放射線治療

担当技師：2人 機器台数：1台

導入メーカー・機器名 VARIAN 社 (TrueBeam)

1 日平均治療件数 25 件

骨密度

担当技師：0.5人 機器台数：1台

導入メーカー・機器名 GE ヘルスケア (LUNAR Prodigy ADVANCE)

1 日平均撮影件数 8 件

貴院の新しい業務の取り組みや業務改善の紹介

【ハイブリッド手術室】

現在、新病院建設の最中で、平成30年の1月から新しく出来上がった棟がオープンしました。一部の透視室を除いて放射線の部署はその棟にて業務を行っています。新病院への移設に伴って各モダリティでの新たな取り組みを紹介していきたいと思います。

新たにハイブリッド手術室を導入し、エックス線透視を併用した手術を行えるようになりました。主に血管外科によるステントグラフト留置術や下肢動脈バイパス術等で活躍しており、他にもペースメーカー留置術や全身麻酔下における ERCP を行っています。来年度には TAVI も開始予定になっており、様々な手術における活躍が期待されています。



【長尺撮影】

一般撮影室では、自動長尺撮影が可能なエックス線撮影装置を導入しました。従来の方法では下肢全長撮影や全脊椎撮影はカセットに複数枚の I.P. を入れて撮影し、読み取った後に画像合成を行っていました。今回導入した撮影装置では、撮影範囲を決定するとその範囲に応じて FPD を搭載した撮影台が移動し、撮影台と連動したエックス線管球が撮影台に追従するように上下に振れ、2~4 回に分けて曝射します。この様な機構を採用することで必要以上の距離を取ることがなくなり、また FPD を使用することで画質も向上した為、被ばく線量が大幅に減少しました。さらに読み取り用のカセットに I.P. を入れ替える必要もなくなった為、露光による濃度低下のリスク等もなくなりました。



【SPECT-CT/PET-CT】

核医学部門では、SPECT-CT および PET-CT を新たに導入しました。SPECT-CT 装置には OSCGM という新たな画像再構成法が用いられ、従来の OSEM 法よりも複雑な再構成処理を可能にし、



xSPECT Bone および、Broad という技術が搭載されました。xSPECT Bone は骨シンチに特化した技術で、CT 画像から 6 つのゾーンマップ（海綿骨、皮質骨、空気、軟部組織、脂肪、金属）を作成し、より高精細な融合画像の取得が可能になりました。Broad では SUV を指標とした定量評価が可能になりました。Bq/ml 単位の半定量値が得られ、経過観察および治療効果判定などの診断能が高まることが期待されます。

PET-CT 装置には Flow Motion という技術が搭載されており、寝台を連続移動させながらの撮影が可能になっています。体軸方向の感度分布が均一になることに加え、関心領域には適切な撮像条件を設定することができ、検査効率の向上が期待できます。また、検出器には LSO クリスタルが用いられています。TOF 技術による高分解能の画像が撮像できるようになり、PET-CT には不可欠な融合画像、高い精度の SUV が取得できるという利点があります。

【3.0T MRI】

MRI 検査においては PHILIPS 社製 3.0T MRI を 3 台導入し、最新画像撮像技術の CS (Compressed Sensing) も取り入れました。CS とは圧縮センシングのことで対象となる信号をできるだけ少ない観察から復元する技術です。これにより、撮像時間の短縮や同じ撮像時間での画質の向上を実現し、より精密な検査を短時間で行うことが出来るようになりました。また、検査室内天井と壁にスカイシーリング（疑似窓）を設置し、少しでもリラックス出来る検査環境の実現を目指しました。



【治療 True Beam】

治療部門の新しい取り組みとしては、VARIAN 社製 2100C から True Beam に代わることによって、IMRT 始めとする高精度な治療が可能となりました。2018 年 7 月より IMRT を臨床導入し、今後 SBRT などの治療法も準備を進めています。



ここ最近5年間の放射線科の移り変わり

平成29年(2017)4月1日に組織編成により、放射線診断科部(4課7係)・放射線治療科部(1課1係)となりました。

診療放射線技師は5年の間に退職7名、入職12名を迎え現在33名(男性:25名/女性:8名)となっています。

☆中央放射線室(センター部門・室部門 名称)

※放射線診断科部

放射線診断技術第1課(Xp・Ope室等)

放射線診断技術第2課(血管撮影・透視検査等)

放射線診断技術第3課(MRI・CT等)

放射線診断技術第4課(核医学検査等)

※放射線治療科部

放射線治療技術課(放射線治療等)



今年入社の人です。
今後ともよろしくお願いたします。
v(*^▽^*)v

地元紹介

松山市は、愛媛県のほぼ中央に位置しており、内陸部と瀬戸内海に浮かぶ有人島9島を含む30島以上で構成されています。愛媛県の県庁所在地で、現在の人口は約51万人。四国唯一の50万都市です。気候は温暖で、降水量も少なく積雪もごく少量、台風の通過も少なく、穏やかで恵まれた気候条件です。海、山、島、まちなど多様な生活スタイルも、新鮮な海の幸・山の幸も楽しめる魅力あふれる都市です。

松山市の中心部、勝山（標高132m）にそびえ立つ松山城は、四国最大のお城です。そして、日本で12カ所しか残っていない「現存12天守」の内の1つ、江戸時代以前に建造された天守を有する城郭の1つです。平成18年に「日本100名城」、平成19年には道後温泉とともに「美しい日本の歴史的風土100選」に選定されました。



松山城

道後温泉は、日本書紀にも登場するわが国最古の温泉です。どっしりとした構えの本館上の振鷲閣（しんろかく）には伝説の白鷲を据え、また毎朝6時に太鼓の音で開館を告げるなど、歴史ある温泉情緒をかもしだしています。



道後温泉